

# 教育は全県民が当事者

## 比嘉県教育委員長再任で聞く

再任され、2年目に向けた抱負を語る比嘉勲香  
県教育委員長(4日、那覇市の県教育庁)



2003年以降、任期1年での交代が続いていた県教育委員長人事で約7年ぶりに再任され、2期目を務めることになった比嘉勲香県教育委員長(50)に、ことしの抱負などを聞いた。比嘉委員長は07年4月に県教育委員に、09年1月に教育委員長に就任した。

## 組織の意義見つめ直す

「開かれた・行動する教育委員会」をテーマに活動した。的確な判断や意見を出すため勉強の機会を設けようと、できるだけ現場に足を運んだ。1年間に16校の学校と3館の図書館を訪れ、県内6教育事務所のうち5事務所で見聞交換会や懇親会を開いた。多くの人と意見を交わす中で互いに課題を共有し、連携して役割を担う話し合いの場をつくれたと思う。

新しいことには時間とエネルギーがかかる。本業で地域振興のコンサルティングを業務にしており、コーディネートや段取りは日常的にやっている。委員との連絡など、できるだけ自分で動いた。

「開かれた・行動する教育委員会」の昨年のテーマは継続する。同時に、教育委員会が合議制である意義をもう一度確認する1年にしたい。

(聞き手・山城祐樹)

―昨年の活動について。

―11月に移動教育委員会を初開催した。

―再任の抱負は。

地域で教育にかかわる人たちの話を聞き、県民の教育に対する関心を高めるのが目的。教育はすべての県民が当事者。関心を高めることで、沖縄の教育を県民ぐるみで考えることができると。移動教委では、県教委の事業に関する点検・評価を議題にした。

―現場に足を運び見えてきたものは。

現場がすべてを伝えてくれる。目で見、耳で聞き、肌で感じる大切さを感じた。問題が起きた時、向き合う時、具体的なことが見えないと解決できない。実際に目にしているからこ

―再任の期待を重く受け止め、子どもたちの明るい未来のために頑張りたい。